

○計画期間：平成29年4月～平成34年3月（計画期間5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成29年3月の認定基本計画に基づき、「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」のスローガンのもと、「行き交う人で賑わうまち」、「住む人、働く人で賑わうまち」を目指して、交流人口の拡大、まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実に努めてきた。

高岡駅前東地区に平成29年2月に竣工した複合ビル「ソラエ高岡」では、市内における3つの看護学校が統合して全国有数の規模を誇る「富山県高岡看護専門学校」が平成29年4月から開校し、300名を超える学生が通学し始め、高岡駅周辺において、新たな人の流れが生み出されている。この他、高岡駅前東地区においては、民間資本のホテルが平成29年3月にオープンしたほか、銀行本店の建設工事が平成30年1月に着工、766台収容可能な駅前東駐輪場が3月に完成するなど事業が進んでいる。

観光地である山町筋においては、歴史的建造物をリノベーションした複合商業施設「山町ヴァレー」が平成29年4月にオープンし、新たな観光スポット・交流拠点として回遊性の向上が図られるなど、山町筋の観光客数と歩行者通行量の増加に寄与している。また、金屋町においては、定住体験施設「さまのこハウス」が、平成30年5月にオープンする予定であり、博労地区の「まちかどサロン」とともに、移住・定住促進施設としての役割が期待される。

一方、中心商店街の末広町で現在整備が進められている中心商店街拠点開発事業（末広西地区）については、98戸の共同住宅、商業施設、公益施設が入居する複合ビルが平成31年春ごろに完成することから、居住人口の社会増や歩行者通行量増に付随して、中心商店街の商業機能の活性化が期待されているところである。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地区域）	平成28年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	14,965人	14,652人
人口増減数	△265人	△313人
社会増減数	△65人	△103人
転入者数	613人	591人

2. 平成29年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定中心市街地活性化基本計画に位置付けられた事業や計画については、関係者が連携を密にし、着実に進行していると評価している。協議会としても、平成29年度からリノベーションまちづくり事業を新たに実施するなど、行政を始めとする関係者と連携・協力しながら、必要に応じた支援等を行っていききたい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
交流人口の拡大	主要観光施設における 観光客入込み数	447,000 人 (H27)	528,000 人 (H33)	363,421 人 (H29)	—	①
	中心商店街・観光地周 辺(6 地点)における平 日・休日の歩行者・自転 車通行量の平均値	16,670 人 (H27)	17,670 人 (H33)	18,229 人 (H29)	—	①
まちなか居住と生活 サービス・事業創 出機能の充実	中心市街地における居 住人口の社会増減数	△33 人 (H27/10～ H28/9)	600 人 (H29～ H33)	△103 人 (H29)	—	①
	中心市街地・観光地周 辺における新規店舗数	39 件 (H23～ H27)	50 件 (H29～ H33)	14 件 (H29)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「観光客入込み数」については、北陸新幹線開業による反動減や瑞龍寺の国宝指定されている山門が工事中であることなどによる減少はあるものの、主要事業は概ね順調に進捗しており、他の施設の来館者数は増加している。また、平成 29 年度に完成した平成の御車山を高岡御車山会館に展示することによる来館者数の増加や、今後整備が予定されている金屋鋳物師町工房（仮称）などにより、山町筋及び金屋町へさらなる観光客の入込数の増加を見込んでおり、目標達成は可能であると見込まれる。

「歩行者・自転車通行量」については、御旅屋通りでは商店街の百貨店での物産イベントやハロウィンイベント等が重なって開催されていたことにより過去最高となり、平成 29 年度において目標値は達成している。また、観光地である山町筋でも通行量が増加しており、交流人口の拡大による賑わいが生まれるなど事業効果が出ている。現時点で目標値は達成されているが、引き続き目標達成を維持できるよう事業を進めていく。

「居住人口の社会増減数」については、まちなか居住施策の展開により 591 人の居住増につながったものの、市内の別の地域への転出がそれを上回っており、平成 29 年度では 103 人の減少となった。今後末広西地区にファミリータイプマンションの完成することに加え、高岡駅前東地区に新たなマンションの建設の動きもあることから、目標達成は可能であると見込まれる。

「新規店舗数」については、開業支援制度を活用した新規店舗に加え、支援事業を活用せずに

開業した店舗もあるなど、高岡駅前東地区整備事業等の事業による波及効果も生まれている。また、リノベーションした複合商業施設へのテナント入居も進むなど、おおむね事業は順調に進捗している。さらに、今後完工予定の複合ビルへの新たなテナントの出店や、隣接する商店街への新規出店を見込んでおり、目標達成は可能であると見込まれる。

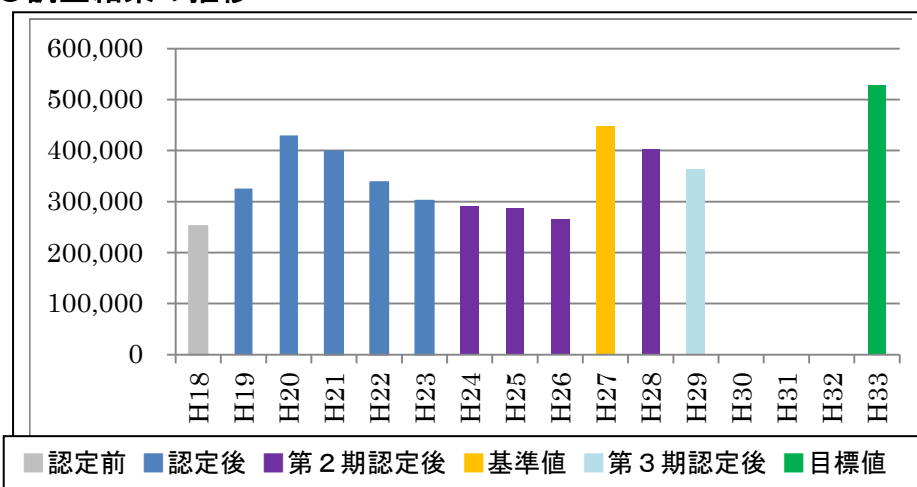
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「主要観光施設における観光客入込み数」※目標設定の考え方基本計画 P74～P82 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H27	447,000 (基準年値)
H29	363,421
H30	
H31	
H32	
H33	528,000 (目標値)

※調査方法：施設毎の1～12月の入込数を集計

※調査月：2月

※調査主体：高岡市

※調査対象：瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館・高岡御車山会館）、金屋町（鋳物資料館）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館、高岡御車山会館）及び金屋町（鋳物資料館）への観光客の増加

①. 歴史的資産を活用した町屋再生事業（事業主体名：末広開発(株)、(株)町衆高岡）

事業完了時期	平成28年度～【実施中】
事業概要	土蔵造りの町家が建ち並ぶ「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」において空き店舗となっている伝統的建造物を、まちづくり会社がリノベーションし、新たな活用を図り、観光地としての魅力向上を目指す。
事業効果及び進捗状況	平成29年4月に空き店舗をリノベーションした「山町ヴァレー」が開館した。本施設開館後、山町筋（菅野家、土蔵造りのまち資料館、高岡御車山会館）の観光者数が前年度に比べ約1,000人増加しており、本事業が寄与したものとする。本事業による観光客の増加は17,080人を見込んでいる。

②. 旧赤レンガの銀行活用事業（事業主体名：高岡市、民間事業者）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	大正 3 年に建築された本格的な洋風建築物である赤レンガの銀行建物を、銀行本店の高岡駅前東地区への移転後に新たな観光・交流施設等として活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度に新銀行本店の建設工事が着工されており、31 年度の完成後の秋以降に銀行建物を本市に無償譲渡される予定である。譲渡後の建物の利活用をはかることによる観光客の増加は 16,360 人を見込んでいる。

③. 金屋鋳物師町工房（仮称）整備事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	高岡鋳物発祥の地である金屋町の特性を活かし、地区住民及び来訪者の交流に資する施設を整備し活用を図ることにより、近隣施設を訪れる観光客の増加を見込む。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に整備計画策定後、平成 29 年度に用地を取得し設計作業を行っている。30 年度において引き続き設計作業を行い、31 年度以降の建設工事着工を見込んでいる。本事業による観光客の増加は 10,260 人を見込んでいる。

イ. 高岡御車山会館への観光客の増加

①. 高岡御車山会館運営事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	重要有形・無形民俗文化財の高岡御車山を通年展示する高岡御車山会館を活用し中心市街地の活性化を図り、魅力ある観光の街づくりを推進する。
事業効果及び進捗状況	高岡御車山会館は平成 27 年に開館し、年間入館者数は、27 年には 55,614 人、28 年には 57,575 人、29 年には 58,720 人と順調に推移している。本事業と平成の御車山制作事業により山町筋（高岡御車山会館）への観光客増加は 15,500 人を見込んでいる。

②. 平成の御車山制作事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 29 年度【済】
事業概要	高岡で守られてきたものづくりの伝統と技術を次世代へ継承し、また、広く全国へ発信するため、高岡に息づく金工・漆工等の伝統工芸技術の粋を集めた平成の御車山を制作する。
事業効果及び進捗状況	平成 24 年度から実施してきた本事業が 29 年度で完了し、今後、完成した御車山は高岡御車山会館で通年展示される。本事業と御車山会館運営事業により山町筋（高岡御車山会館）への観光客増加は 15,500 人を見込んでいる。

ウ. インバウンド需要の増加及び広域観光の推進による観光客増加

①. 日本遺産魅力発信推進事業（事業主体名：高岡市日本遺産推進協議会）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	平成 27 年に国の認定を受けた日本遺産のストーリーの魅力国内外に発信し、中心市街地に多くある歴史・文化資産の魅力を広く周知するとともに、観光客の増加を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度は、本市の日本遺産を巡る旅行商品を募集・造成し、市外からの誘客に努めるとともに、来訪者向けの看板整備を行った。また、市民一人ひとりの発信力を高めるため日本遺産のストーリー周知用のマンガを制作し、全戸配布を行った。本事業により本市への観光客増加は 12,200 人を見込んでいる。

②. 呉西観光誘客推進事業（事業主体名：高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	平成 28 年 10 月に策定した「とやま呉西圏域都市圏ビジョン」に基づき、圏域の多彩な観光資源（自然・文化・産業遺産等）の連携によるマーケティング・ブランディングにより、圏域の観光エリアのPR強化・充実に努め、観光誘客を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度は、前年度に引き続き富山県西部 6 市で PR・出向宣伝事業として JR 大阪駅、金沢駅で出向宣伝等を行った。また、インバウンド促進事業として 6 市長によるシンガポールへのトップセールスを行った。本事業により本市への観光客増加は 9,700 人を見込んでいる。

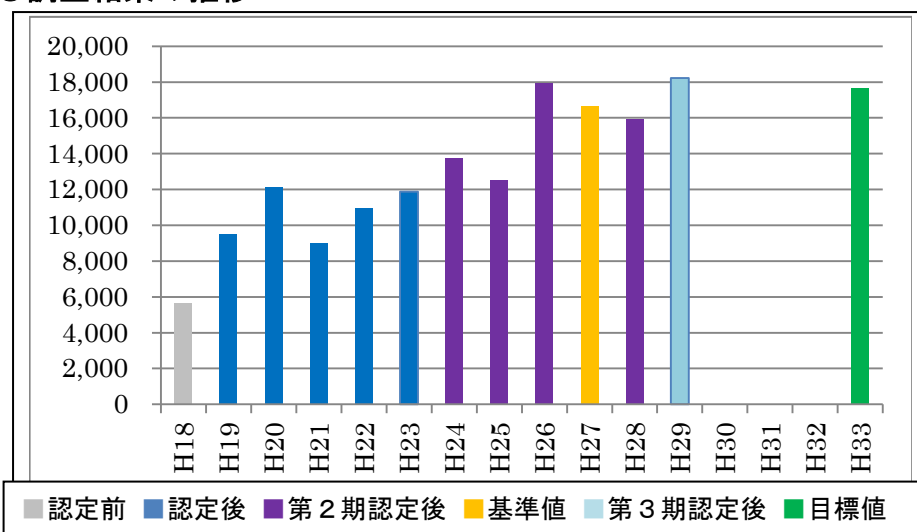
●目標達成の見通し及び今後の対策

北陸新幹線開業による反動減や、瑞龍寺の国宝指定されている山門が平成 29 年 5 月から工事中であったことなどにより、瑞龍寺への観光客の入込数が前年度に比べ約 40,000 人の減少となったことなどから、平成 29 年は基準値を下回っている。一方、瑞龍寺と金屋町（鋳物資料館）以外の施設では前年度の入込客数を上回っており、主要事業はおおむね順調に進捗している。新たに完成した平成の御車山を御車山会館に展示することによる集客効果に加え、新たに造成した北陸新幹線を利用した旅行商品の販売実績が好調であることから、今後さらなる観光客の増加を見込んでいる。引き続き、山町筋及び金屋町への観光客増加を目指し、主要事業の進捗に努めていきたい。

「中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」

※目標設定の考え方基本計画 P82～P89 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H27	16,670 (基準年値)
H29	18,229
H30	
H31	
H32	
H33	
H33	17,670 (目標値)

※調査方法：平日・休日の歩行者・自転車通行量を計測

※調査月：10月

※調査主体：高岡市

※調査対象：中心商店街・観光地周辺6地点（高岡駅前（人工デッキ）、末広町（西）、末広町（東）、御旅屋通り、大仏前、山町筋（木舟町））ただし H18 は大仏前、山町筋を除く

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 富山県高岡看護専門学校運営事業による効果

①. 富山県高岡看護専門学校運営事業（事業主体名：(学) 未来高岡）

事業完了時期	平成29年度～【実施中】
事業概要	富山県西部地域の中核的な看護師養成機関として、高岡市内にある3つの看護専門学校を統合した新たな看護専門学校を高岡駅前東地区に新設し運営を行う。
事業効果及び進捗状況	平成29年4月から新たな看護専門学校が開校し、300名を超える学生が通学し始めた。高岡駅前（人工デッキ）では前年度に比べ平日では約270人の通行量が増加しており、本事業が寄与していると考えられる。

イ. 高岡駅前東地区整備事業による効果

①. 高岡駅前東地区整備事業（事業主体名：高岡市、高岡駅前東地区まちづくり協議会、関係権利者）

事業完了時期	平成33年度【実施中】
事業概要	地区内の機能更新を図るため、地権者と共に実現化に向けた計画の策定や民間事業の開発支援（業務施設、マンション等）、周辺環境の整備（道路、広場等）を実施する。

事業効果及び進捗状況	平成 29 年 3 月にホテルがオープンしたほか、平成 30 年 1 月には銀行本店の建設工事が着工した。本事業の実施により 280 人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいる。
------------	--

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による効果

①. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）（事業主体名：末広西地区セブンラック協議会）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業では、98 戸のファミリータイプのマンション、商業施設、公益施設からなる複合ビルの整備を行うこととしており、平成 28 年度に建築工事が着工し、30 年度に完了する予定となっている。本事業による歩行者・自転車通行量の増加は 440 人を見込んでいる。

エ. 歴史的資産を活用した町家再生事業による効果

①. 歴史的資産を活用した町家再生事業（事業主体名：末広開発(株)、(株)町衆高岡）【再掲】

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	土蔵造りの町家が建ち並ぶ「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」において空き店舗となっている伝統的建造物を、まちづくり会社がリノベーションし、新たな活用を図り、観光地としての魅力向上を目指す。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に空き店舗をリノベーションした「山町ヴァレー」が開館した。本施設開館後、山町筋の歩行者・自転車通行量は前年度に比べ約 130 人増加しており、本事業が寄与したものとする。なお、本事業による歩行者・自転車通行量の増加は 100 人を見込んでいる。

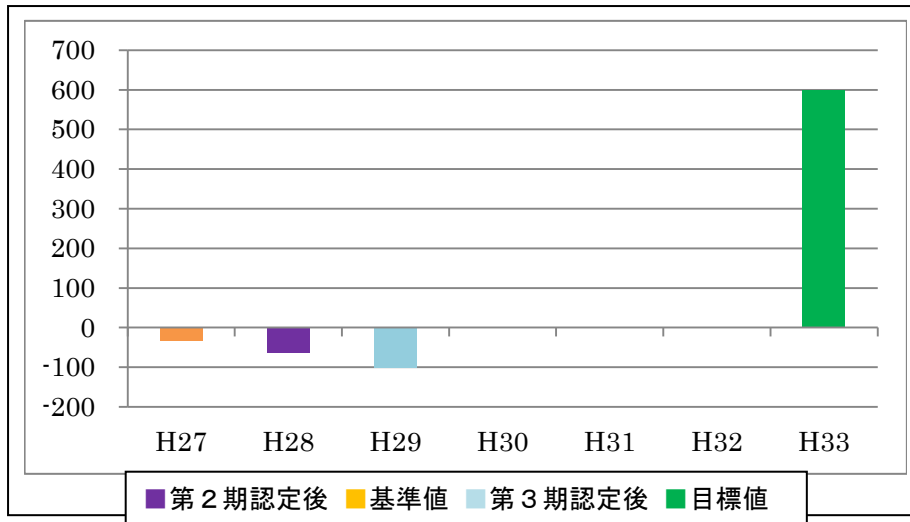
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。高岡駅前東地区に新たな看護専門学校が開校したこともあり通行量の増加がみられるが、高岡駅前（人工デッキ）においては依然として新幹線開業前の水準には届いていない。一方、御旅屋通りにおいては中心商店街でのイベントが重なっていたことにより、過去最高のものとなった。また、観光地である山町筋においても通行量が増加しており、交流人口の拡大による賑わいも生まれていると考えている。現時点で目標値は達成されているが、引き続き事業を着実に進捗させ、目標値達成を維持しながら実績を伸ばしていきたい。

「中心市街地における居住人口の社会増減数」

※目標設定の考え方基本計画 P89～P93 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H27	△33 (基準年値)
H29	△103
H30	
H31	
H32	
H33	
H33	600 (H29～H33) (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：3月31日

※調査主体：高岡市

※調査対象：認定区域内に居住する人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. まちなか居住推進総合対策事業による増加

①. まちなか住宅取得支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、家屋の新築や、建売・中古住宅の取得、分譲マンション・中古分譲マンションの取得、隣地の取得を行う者に対し、費用の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	まちなか住宅取得支援事業は平成 19 年度より事業を実施している。29 年度では 30 件の利用実績があり、まちなかにおける居住人口の増加に寄与している。本事業を含めたまちなか居住推進総合対策事業により、居住人口は 5 年間で 220 人の増加を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

イ. まちなか共同住宅建設促進事業による増加

①. まちなか共同住宅建設促進事業（事業主体名：高岡市、民間事業者）

事業完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、分譲又は賃貸による共同住宅を建築する者に対し、費用の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	まちなか共同住宅建設促進事業は平成 19 年度より事業を実施している。29 年度では 1 件の利用実績があり、まちなかにおける居住人口の増加に寄与している。本事業により、居住人口は 5 年間で 160 人の増加を見込んでいる。

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）による増加

①. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）（事業主体名：末広西地区セブンラック協議会）【再掲】

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業では、98 戸のファミリータイプのマンション、商業施設、公益施設からなる複合ビルの整備を行うこととしており、平成 28 年度に建築工事が着工し、30 年度に完了する予定となっている。本事業により居住人口の増加は5年間で 220 人を見込んでいる。

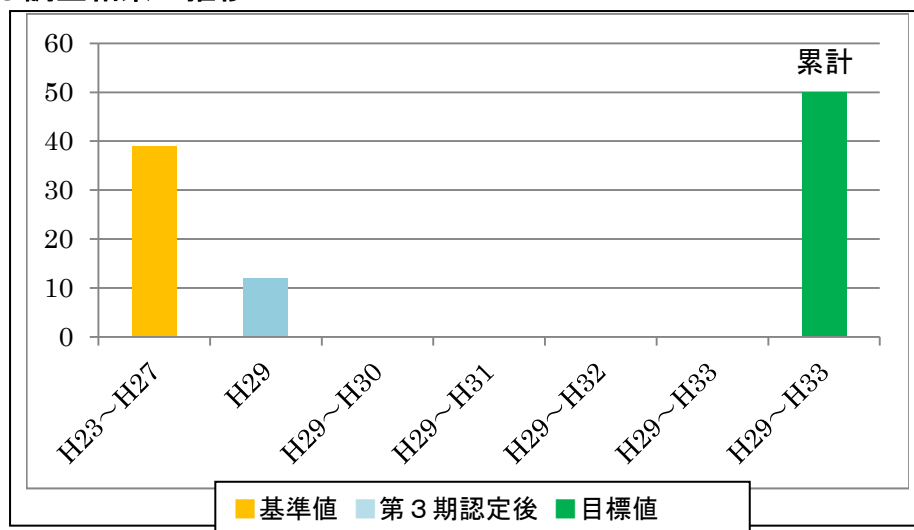
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に進捗しており、中心市街地へは591名の居住者の増加があったものの、中心市街地から他地域への転出者数がそれを上回っており、平成29年度では103人の減少となった。しかし、今後、末広西地区でのファミリータイプのマンションの完成に加え、高岡駅前東地区においても新たなマンション建設も期待されることから、目標達成は可能であると考えている。引き続きまちなか居住の推進を図るため、住環境の向上を図るための防災対策の強化や、空き家に対する利活用を含めた各種事業を総合的に推進していきたい。

「中心市街地・観光地周辺における新規開業出店舗数」

※目標設定の考え方基本計画 P94～P96 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H27	39 (H23～H27) (基準年値)
H29	14
H30	
H31	
H32	
H33	
H33	50 (H29～H33) (目標値)

※調査方法：職員による現地調査

※調査月：平成29年4月～平成30年3月

※調査主体：高岡市

※調査対象：認定区域内における新規開業店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 開業支援事業による効果

①. 中心市街地における開業支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成20年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の魅力向上に寄与する店舗の進出を促進するため、空き店舗を活用した開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地における開業支援事業は平成20年度より事業を実施しており、平成29年度には本事業を活用し3店舗が新規開業しており、新規開業出店舗数の増加に寄与している。本事業により、中心市街地における新規開業店舗数を5年間で25件を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

②. 観光地における開業支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成20年度～【実施中】
事業概要	市内の主要観光地に、主に観光客を対象とした飲食・物販を中心とした店舗の進出を促進するため、空き店舗における開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	観光地における開業支援事業は平成20年度より事業を実施しており、平成29年度には本事業と歴史的資産を活用した町家再生事業を活用し、出店した店舗があり、新規開業出店舗数の増加に寄与している。本事業により、観光地における新規開業店舗数を5年間で10件を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

③. 中心市街地におけるオフィス開設支援事業（事業主体名：末広開発(株)、(株)町衆高岡）

事業完了時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地へのオフィス立地を誘導するため、一定要件を満たした新設オフィスに対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地におけるオフィス開設支援事業は平成 20 年度より事業を実施しており、29 年度では本事業を活用し4つのオフィスが新規開設しており、新規開業出店舗数の増加に寄与している。本事業により、中心市街地におけるオフィス開設数を5年間で5件を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

イ. 歴史的資産を活用した町家再生事業による効果

①. 歴史的資産を活用した町家再生事業（事業主体名：末広開発(株)、(株)町衆高岡）【再掲】

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	土蔵造りの町家が建ち並ぶ「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」において空き店舗となっている伝統的建造物を、まちづくり会社がリノベーションし、新たな活用を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に空き店舗をリノベーションした「山町ヴァレー」が開館し、町家内に 8 区画のテナントスペースを整備した。29 年度中に 5 つのテナントが入居し、30 年度には残り 3 区画にテナントが開店する予定である。

ウ. 中心商店街拠点開発事業（末広西開発）による効果

①. 中心商店街拠点開発事業（末広西地区）（事業主体名：末広西地区セブンラック協議会）【再掲】

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業では、98 戸のファミリータイプのマンション、商業施設、公益施設からなる複合ビルの整備を行うこととしており、平成 28 年度に建築工事が着工し、30 年度に完了する予定となっている。本事業により整備される複合ビル内にテナントスペースを整備することとしている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。引き続き開業支援事業に努め、新規開業店舗の増加に努めていくとともに、新たに整備されるテナントスペースに入居が進むよう支援に努めていきたい。